

# 特別活動研究部会

## I 研究テーマ

### 「生きる力を育てる特別活動」

## II 研究テーマ設定の理由

学級活動，児童・生徒会活動など特別活動の各内容は，児童・生徒が自発的，自主的に取り組みやすい活動内容から構成されている。

特別活動には，お互いにふれ合い，協力し合い，認め合うとともに，自己を正しく生かす場や機会が多く，さらに，集団の一員として，なすことによって学ぶ活動を通して，自主的，実践的な態度を身に付けられるという教育的意義もある。総合的な学習の時間と補充し合って，「生きる力」を育てる重要な場と機会が，特別活動には多く設定されていると言える。

しかし，実際の学校生活では，限られた時間の中で，児童の自発的，自主的な活動の場や機会が必ずしも保障されていないという問題点も指摘されている。特別活動本来の目標でもある，義務教育9年間における，それぞれの学年の発達課題の達成や望ましい集団活動の充実のためには，教師の意図的・計画的な働きかけや指導の創意工夫が今まで以上になされなければならない。

そこで，それらの課題の解決をめざし，本来あるべき特別活動の姿を求めるために，本テーマを設定した。

## III 研究の経過と内容

### 1 研究の方法

- (1) 研究テーマを受けて，各自が特別活動における課題に取り組み，実践報告を行う。
- (2) 実践報告は，計画段階から実践終了後の反省まで，取り組みの過程がわかるように作成し，子どもの姿が見えやすいものをめざす。
- (3) 各所属校の児童会・生徒会活動や学年・学級の実践事例についての情報交換や資料の提供などは随時行う。
- (4) 各自の実践報告および討議の時間とは別に，必要に応じて特別活動に関する内容や総合的な学習の時間の事例との関わりなどについて討議する時間を確保する。

### 2 研究の経過

4月10日	第1回部会	役員選出，年間活動計画立案，研究テーマ・方法の決定
5月14日	第2回部会	活動計画及び内容の確認，実践レポートのテーマ確認
6月18日	第3回部会	実践報告と討議<提案(1)・(2)>
7月31日	第4回部会	実践報告と討議<提案(3)・(4)・(5)>
8月16日	第5回部会	実践報告と討議<提案(6)・(7)・(8)>
9月 3日	第6回部会	実践報告と討議<提案(9)・(10)・(11)>
10月 1日	第7回部会	県教研に向けてのレポート検討<提案(4)>
11月 5日	第8回部会	県教研還流報告
1月21日	第9回部会	研究のまとめ，来年度に向けて

### 3 研究内容

#### (1) 友だちと命を大切にしよう

小学校3年の学級集団は、自分の気持ちや考えを言葉でうまく伝え合うことができないことや課題を抱えた子どもたちへの対応から、トラブルを抱えていた。「生活設計ができるクラスづくり」をめざし、「友だちと命を大切に」よりよい友だち関係づくりのための生活の振り返り活動＝生活オリンピックを通し、自分たちの行動や友だちとの関わりを見つめ直した、自治的な学級づくりのための温かな実践レポート。

#### (2) 民主的な生徒総会をめぐる

生徒会担当として、従来の「発表会」的な生徒総会の在り方から総会の意義を考えさせる議案書作りを始める。話し合いの進め方や表現の工夫などについても子どもたちに意識させる取り組みを行う中で当日を迎える。生徒会執行部のスローガン原案が否決され、修正案に決定するという事実を通して、執行部や指導者側、教師の立場から「民主的なもの」を問いかけ考察した。組織的な活動に関する中学校現場の課題を提示し、リーダーや組織づくりの重要性を示唆したレポート。

#### (3) 教師依存型の集団から自主的・自律的な集団を目指してII

昨年持ち上りの小学校4年の学級集団は、児童理解が進んだことにより様々な課題を投げかけてくる。リーダー不在から、リーダー中心に決めて行動していける集団をめざして、学級目標決定に向けた話し合いが始まる。子どもたちそれぞれの考えや願いを重ね合わせの中で大きなスローガンから、より具体的な目標を自ら作り上げていった。自治的な学級づくりの初期における粘り強い実践。

#### (4) クラスが明るく仲良しになる五色百人一首

「個性を大事にしながらかもルールを守ること大切にしてほしい」という担任の願いから、「五色百人一首」に取り組んだ。掃除後の隙間時間を活用して、3年生の子どもたちは、自主的・意欲的に準備を進め、ゲームを楽しむ中で、ルールを守り友だちとのふれ合いを深めていった。児童の自主性を大切にしながらか、課題を抱える子どもへのきめ細かな心配りも含めて、取り組みを丁寧につづけた県教研提出レポート。

#### (5) 個と集団のバランスを大切に宿泊学習の取り組み

支援学級の担任として、実態差の大きい生徒の個々の課題を明らかにし、対応策を模索している。宿泊学習への取り組みを通して、新たに加わった生徒の学級内の人間関係づくりや生徒指導の問題も学級全体の問題として話し合い、学級集団のバランスを大切にする支援を重ねた。集団の中で自分を生かすための学び合いを意図的に仕組んだことにより、生徒に自立への意識を高めさせながら宿泊学習を成功に導いたレポート。

#### (6) 規律ある生活のよさを感じられる学級作りを目指して

少人数ではあるが様々な課題を抱えている児童が多い4年生の担任として、日々の学校生活の中から見出した課題を取り上げ、学級の決まり作りから課題の解決に向けて取り組んだ。個々の児童の行動観察やアンケートなどにより、学級児童の実態を把握し、より良い学級作りをめざして、奮闘・努力を続ける力強い実践。

(7) 3学期の学級目標を決めよう

中学2年の学級活動の実践報告。限られた時間の中で「みつめるノート」、「振り返りシート」を活用し、日常生活の中の課題を個人から小集団（4人グループ）で話し合い、共通理解を図る活動を通して明確化していった。学級目標を大きな柱として、短期的な学期目標を立てることにより、課題解決のために生徒自らが実践していこうとする意欲・姿勢が感じられる学級集団づくりの実践。

(8) 「林間学校～修学旅行を考える」

～行事を通して自分を見つめ、友達とふれ合い、お互いの力を高め合おう～

落ち着いて真面目に活動等に取り組めるが、自主性が弱い学年児童の実態を受け、林間学校の活動プログラムの中に、学級枠を外し自由なグループ編制と活動ができる「フリータイム」を計画した。1学期の学級づくりから、2学期の行事を通した学年づくりという段階を踏んだ、見通しをもった実践。

(9) 中学年（4年生）児童への集団づくりのあり方Ⅱ

昨年度からの持ち上がりの4年生担任として、児童理解の一環としてのアセス（ASSESS）を利用した学級集団理解と集団づくりへの実践。連合音楽会や自分たちの問題を自分たちで洗い出し話し合う学級会活動の取り組みなど、子どもたちの自主性を大切にしながら自らの集団への帰属感を高めるよう努めたレポート。

(10) ともに育っていける学級をめざして

昨年度から持ち上がり、クラス替えを経て3年の担任になった。学級減になり、課題を抱える子どもたちが多数存在する中で、学級開きで担任の思いを伝え、児童との共通理解を図ることから学級目標を作り上げた。友だち関係のうねり修復への取り組みや「名刺交換会」などの活動を通して、友だちを思いやる姿勢や係の自主性も育ってきた。子どもたちに関わる一つ一つの出来事に丁寧に対応することで、学級集団の力を高めていく過程を丁寧に綴った実践。

## IV 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

○互いの実践発表から検討を通じて、

- ・異なる校種のメンバーが意見交換することで、教育観や指導観が広がった。
- ・学級づくりの意図や段階性を話し合うことで、互いが実践への糸口を得た。

○県教研の環流レポートの検討が勉強になった。

### 2 研究の課題

○部員相互の研究の深まりと同時に、広がりを探る立場で研究を推進する。